

# 各教科等における 「令和2年度の重点」

## 「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

新学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されました。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、各教科等の学習を「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、こうしたことを踏まえ、「確かな学力」において目指す子供を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、その具体的な姿を「阿波っ子 学びのススメ10か条」に示し、「豊かな心」・「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿の実現を図ります。

### 育成を目指す資質・能力の三つの柱

- 生きて働く知識・技能
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等

### すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント (国語力向上タスクフォースの提案から)

#### 本県の児童生徒に身に付けさせたい力

- ・ 文章の中心的部分と付加的部分、問題提起の部分と具体例、まとめの部分などを読み分けて要旨を捉えたり、問いの意図やその解決に至る経緯を正しく理解したりする力
- ・ 目的に応じて必要な情報を集めるための見直しをもって臨み、根拠として取り上げている内容が適切であるかどうかを吟味したり、また、その根拠が適切であるか理由が明確になるように自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりする力
- ・ 相手の意図を捉えたりしながら自分の考えを明確にもち、その考えを深めるために、場に合った適切な言葉遣いで話したり、書いたりしながら、互いに伝え合う力

正確に読み取らせるには！！

- 何が書かれているかを的確に捉えよう！



主体的・対話的で深い学びの視点からは！！

- 自分の思いや考えを「書く」場面を増やそう！
- 自分の思いや考えを深めるために他者の意見を取り入れる場面を増やそう！
- 学んだことを振り返る場面を工夫しよう！

深い学びにつながる三つの発問は！！

- 別の言葉に言い換えてみよう。
- 比べてみよう。関連付けてみよう。
- そう考えた根拠と理由は何だろう。



## 中学校の各教科等の重点

### 目指す子供の姿

- 我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関して理解しているとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめることができる。
- 社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりすることができる。
- 社会的事象について，国家及び社会の担い手として，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとするすることができる。

### 目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①「単元を貫く問い」を設定し，知識を活用したり，技能を習熟させたりするための活動を充実
  - ◇単元を通して身に付けさせたい知識を明確にして，身に付けた知識を活用する場面を設定する。
  - ◇地図や統計等，各種の資料を収集し，読み取り，まとめる学習場面を設定する。
- ②生徒が自分の考えを広げ深める対話的な学習活動を取り入れる
  - ◇自分の考えをもつ場を設定し，思考を可視化する手立てを工夫する。
  - ◇資料等を活用して論理的に説明したり，立場や根拠を明確にして議論したりする場面を設定する。
- ③生徒が主体的に課題解決しようとする学習活動の充実
  - ◇生徒と社会との関わりを意識させる課題を設定する。
  - ◇課題に対するまとめや学びの振り返りの場面を設定する。